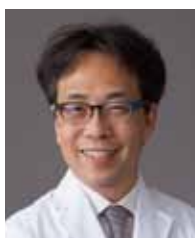


第34回日本眼循環学会

ランチオンセミナー2

- 日時：2017年7月22日(土) 12:15~13:15
- 会場：B会場(大阪国際会議場 10F 会議室1001+1002)
〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3-51

RVOの病態と治療を再検証!



◆ 座長 ◆

瓶井 資弘 先生 愛知医科大学 眼科学講座 主任教授



◆ 演者1 ◆

サイトカインから網膜静脈閉塞症の病態を考える

野間 英孝 先生 東京医科大学八王子医療センター 眼科 准教授



◆ 演者2 ◆

当施設のデータから振り返る網膜静脈閉塞症に対する治療戦略

西信 良嗣 先生 滋賀医科大学 眼科学講座 准教授

※ランチオンセミナーは整理券制となっております。
配布場所：大阪国際会議場 10F ホワイエ
配布時間：7/22(土)8:00~12:00 整理券がなくなり次第終了(セミナー開始10分以降は無効)

第34回日本眼循環学会

共催



Bayer バイエル薬品株式会社

Santen 参天製薬株式会社

※本セミナーのご参加にあたり、弊社による旅費の負担はできませんことをご了承ください。

RVOの病態と治療を再検証!

◆座長◆

瓶井 資弘 先生 愛知医科大学 眼科学講座 主任教授

網膜静脈閉塞症(retinal vein occlusion: RVO)の黄斑浮腫に関しては、近年のOCT等の検査機器の進歩により、静脈閉塞に至る病態の理解が進み、急性期の視力障害の原因として黄斑浮腫が重要視されるようになりました。

また、抗血管内皮増殖因子療法(抗VEGF薬)の硝子体内投与の普及に伴い、新たなエビデンスも加えられ、RVOの視力予後は大きく改善しました。

しかしながら、抗VEGF薬による治療後も、何度も再発を繰り返す症例や、浮腫が消失しても大きく視機能が改善しない症例もあり、治療方法はまだ確立されていないのが現状です。

本セミナーでは、2名のエキスパートの先生方をお迎えし、RVOの病態と治療について再検証して頂きます。まず、東京医科大学八王子医療センターの野間先生には炎症サイトカインからRVOの病態を再度検討して頂きます。そして、滋賀医科大学の西信先生からは、抗VEGF薬による治療について自施設からのデータも踏まえ、よりよい治療方針についてご提案頂きます。

知識とご経験の豊富なお二人からの最新情報は、網膜静脈閉塞症の治療に取り組まれている先生方にとって、新たな知見をもたらし、明日からの診療にお役立て頂けることと思います。多くの先生方のご参加を心よりお待ちしております。

■ご略歴

1988年 大阪大学医学部卒業・眼科入局
1990年 国立大阪病院眼科 医員
1995年 大阪大学医学部眼科 助手
1996年 米国 Cleveland Clinic, Cole 眼研究所 留学
2000年 大阪大学医学部眼科 講師
2000年 京都府立医科大学眼科 講師
2006年 大阪大学医学部眼科 助教授(2007年より准教授に名称変更)
2011年 大阪大学医学部附属病院 病院教授
2015年 愛知医科大学 眼科学講座 主任教授
現在に至る

◆演者1◆

サイトカインから 網膜静脈閉塞症の病態を考える

野間 英孝 先生

東京医科大学八王子医療センター 眼科 准教授

■ご略歴

1992年 久留米大学医学部卒業
1992年 広島大学眼科入局
1999年 東京女子医科大学糖尿病センター眼科
2000年 広島大学眼科 助手
2007年 東京女子医科大学八千代医療センター眼科 講師
2014年 東京医科大学八王子医療センター眼科 准教授
2016年 University of Louisville Visiting Professor
2017年 東京医科大学八王子医療センター眼科 准教授
現在に至る

◆演者2◆

当施設のデータから振り返る 網膜静脈閉塞症に対する治療戦略

西信 良嗣 先生

滋賀医科大学 眼科学講座 准教授

■ご略歴

1993年 奈良県立医科大学医学部卒業
1993年 大阪大学眼科入局
1999年 大阪大学大学院医学研究科博士課程卒業
2001年 米国ジョーンズ・ホプキンス大学留学
2004年 大阪大学眼科 助手
2009年 東邦大学医療センター佐倉病院眼科 准教授
2011年 滋賀医科大学附属病院眼科 特任講師
2014年 滋賀医科大学眼科学講座 講師
2017年 滋賀医科大学眼科学講座 准教授
現在に至る